

平成 28 年 11 月 4 日

長崎市長 田上富久 様

長崎大学による新たな感染症研究拠点の早期整備を求める要望

長崎大学では、新たな感染症研究施設、いわゆる BSL-4 施設を中心とした感染症研究拠点の形成への取組みが進められています。言うまでもなく長崎は、幕末以来、我が国の重要な医学研究拠点の一つであり、長崎大学は長崎の人々の健康を支え、また、感染症との戦いに長い伝統と豊かな実績を持っています。

私たちは、この取組みが長崎の未来にとっても重要な意義を有するものと考えており、今回、以下のような見解を表明するものであります。

21 世紀に入り、世界の一体化はますます進み、エボラ出血熱、ジカ熱など、本来は日本に存在しない感染症の脅威も飛躍的に高まっています。

現在、長崎市は、国際観光船だけで一年間にその人口とほぼ同じ約 43 万人もの人々を海外から迎えています。観光客を積極的に誘致し、そこに街づくりの新たなチャンスを見い出そうとする動きも強まっています。

今後、一段と海外との交流を活性化していこうとしている中で、私たち自身が感染症の恐怖から少しでも解放されるためにも、まずは長崎自身が感染症に備える力をもつことが重要であると考えます。

いざ長崎で感染症が発生したときに患者への緊急時対応等を行うためには新たな研究施設を長崎大学病院に近接して設置することで、速やかな診断や治療の実現につながるとともに、新たな治療薬やワクチンの研究開発、そして将来を担う研究者の育成にも大きく寄与すると考えます。また、長崎大学が施設の設置を検討している坂本キャンパスは、大学病院だけではなく、熱帯医学研究所及び医学部にも隣接し、そこには約 150 人もの感染症研究者が集まっています。

このような環境の下で、私たちが行うべきことは、日本、さらには世界の人々を感染症の恐怖から少しでも解放することだと考えます。

ただし、そのための大前提になるのは安全の確保です。現在、国は長崎大学の取組みに対して、様々な支援や厳しい規制を通じて、最高水準の安全の確保を図る意思を表明しています。私たちは、大学や国に対し、これからも一層徹底した安全の確保を強く求めています。併せて長崎県や長崎市に対しては、長崎大学が検討している新たな感染症研究施設の設置について、ご賛同いただくよう強く望みます。

私たちは、これまで地域とともに歩んできた長崎大学とこれからも手を携えて進んでいくことが、将来の長崎にとってより重要であると考えます。長崎大学とともに一致協力し様々な課題を乗り越え、新たなチャンスをつかみとり、子供や孫に素晴らしい長崎を受け継いでいくためにも新たな感染症研究施設の設置が必要であると考えます。